

「つどい」の7つのシキタリ

その1

席は、**籤引き**。恋が偶然の機会から生まれるように、籤で偶然近くに坐った方や「えにし結びたい・む」で出会った方々と、日本を変える「えにし」が結ばれますように。話の糸口になる「名札」と「えにし結び名簿」を用意しました。

その2

だれもが参加していただけるように一 がモットー。**育児サービス**は、まだまだ未熟ですががんばっています。介助者からは参加費をいただかないのも慣例です。「えにし」を結ぶには、**情報保障**が欠かせません。プロによるパソコン文字通訳、手話、磁気テープ、指点字を用意するのが**シキタリ**になりました。

その3

毎回、**news** が**潜**んでいます。多数参加しておられるメディアのみなさん、見つけてくださいね。

その4

毎回、多彩、豪華な「えにし」の方が登壇してくださいますが、どんなに高名な方でも、講演料ナシ。「素晴らしい参加者の前で話すことができる、それは、「**権利**」なのだ」という理屈からです。せめてのお礼に、ご著書をお買い求めになり、広めてくださいね。もちろんご発言の内容も。

その5

登壇は「権利」なので、よほどのことがないかぎり、登壇は「**一生に一度**」だけ。昨年の某コーディネーターは「panelistになる権利を失うからイヤ」と逃げ回りましたがムリヤリ説得(^-)-☆

その6

「えにし」の集いのモットーは前例を破ること。〇〇先生、〇〇局長という上下っぽい呼びかけをやめて、〇〇さんに。昨年、一気に〇〇ちゃんと呼び合うことになりました。**くまちゃん、まこっちゃん**と呼び合って、濃縮シンポジウムが始まる前から、水平の関係で盛り上がっています。

その7

このような催しにかかせないのが裏方です。義侠心で10年間も裏方のプロのワザを発揮してくださっていたのは、仙台のCLC、本名、全国コミュニティライフサポートセンターです。ところが、その拠点を震災が襲いました。「ボランティアは乱世に現れる」という法則どおり、国際医療福祉大学大学院 医療福祉ジャーナリズム分野の院生・卒業生が立ちあがりました。以下は、その裏方ぶりです。

資料配布ボラ まず見本をお送りいただき、リストをつくって下準備。朝10時前に段ボール約50箱(写真①)を開いて、セットしていきます。届くはずの資料が届かないこともしばしばで、ハラハラドキドキ。「袋詰めボランティア」(写真②)を志願してくださった方々が資料400セットを1時間で終わらせるという離れ業に、毎年成功しています(*^-)-*)

「満員御礼」判定&「えにし結び名簿」ボラ 当初は手紙と返信ハガキでしたが、いまはメールで受信。お知らせすると、その日のうちに100通以上が殺到、必死にエクセルにコピーして満員を「判定」。印刷前に名簿のPDFファイルを作成して確認メールを発送します。ご自身が記入された公開メールアドレスなのにミスがあってかなり戻ってきて悪戦苦闘。最終名簿から受付名簿を作成して名札をプリントアウト(写真③)。

映像配信&ツイッターボラ 2010年から、実験的にUstream配信が始まりました(写真⑥)。なぜか、電波の入りが悪かったりし、生中継はトラブルが多く、こちらも悪戦苦闘。海外にいらっしゃる「えにし」の方や当日会場に来られない方から温かいお言葉を頂くのがはげみ。後日、Youtubeで見えて頂けるようにアーカイブしています。

プログラムづくりボラ かつては、CLCの方が当日未明まで無料奉仕で印刷し仙台から運んでくださったのですが、いまは卒業生がレイアウトし印刷はプロに。でも、入稿が遅れると、とたんに値段が跳ね上がるので徹夜仕事になるのは、いまも同じです。このほか、登壇者のご著書の**売り子担当ボラ**④、**受付・ご案内担当ボラ**⑤etc. etc. リボンをつけた裏方ボラをみかけたら、励ましてくださいね。



①届いた段ボール箱をあけて、数十種類のチラシを取り出す大仕事 ②登壇者のたんちゃん、こと丹野智文さんも加わって、400の袋にチラシ封入作業 ③満員御礼判定&えにし結び名簿担当ボラが1週間奮闘した成果のひとつがこの400枚の名札。マスコットの赤ずきんちゃん



④登壇者のご著作の売り子ボランティア ⑤受付・ご案内担当ボラ ⑥ITに強い Youtube、Ustream 担当ボラ ⑦話した言葉がたちまち文字になるパソコン文字通訳のプロのみなさん (撮影ボランティア 渡部新太郎さん)

